



たかはし
高橋さゆりが問う

選挙の投票率を上げる工夫を

Q 8月25日投開票の埼玉県知事選挙・小川町議会議員選挙の投票率と期日前投票の人数は。

A 総務課長 投票率は58・92%、期日前投票は4日間で3807人でした。暫定的ではありますが、14・38%の方が期日前投票をしました。

Q 真夏の選挙なので、期日前投票所の場所をしっかりと議論をしたのか。

A 総務課長 バリアフリーなど障害のある方への利便性、大型扇風機等の設置による暑さ対策、セキュリティ面の対応などを総合的に勘案し、選挙管理委員会で審議をして議決をいただきました。

Q 町議会議員選挙は、町民に一番身近な選挙だ。投票するのに真夏の暑い中、外に並ばせることは避けたい。西会議室から場所を変更するようずっと訴えてきたが。

A 町長 理解はできますが、選挙管理委員会は独立した執行機関です。町が意見をする立場にはありません。

Q 選挙に当たっては投票率の向上が大切だが、主権者教育観点での工夫は。総務課長 投票に関しては、選挙ごとに選挙管理委員会が発行する「明るい選挙」及びホームページ等で啓発しています。



身近な選挙になると行列で待たされる期日前投票所の西会議室。



やまぐちかつし
山口勝士が問う

災害時に命を守るためには

Q 昨年末、中央防災会議は、避難行動のタイミングを5段階の警戒レベルで表現した。どう使われていくのか。

A 防災地域支援課長 6月に「警戒レベルと避難・防災気象情報」を掲載した防災マップを全戸配布しました。区長会研修会や地域での防災講話、町ホームページ等で5段階の警戒レベルで避難情報発令を行っていくことをお知らせしました。

Q 防災としての声がけや見守りが「地域に住む安心感」「つながり」を再構築していくのではないかと。町内の先進事例を紹介しては。

A 防災地域支援課長 地域のことを地域で考え、地域で助け合う組織づくりが今後さらに大切になっていきます。区長会研修会などで、地域活動の先進事例の研修を実施することについて検討していきます。

デマンドタクシー見直しは

Q 急激な高齢化が進む中で、登録者数・利用者数は間違いなく伸びていく。しっかりとそれに対応していくことが重要だ。町の基本的な考えは。

A 都市政策課長 必要な予算を継続的に確保しつつ、限られた財源の中で継続できるよう運行形態の定期的な検証・見直しを行っていきます。



台風19号での予想を超えた槻川の増水。



たなかてるこ
田中照子が問う

雑がみ資源化で可燃ごみ削減を

Q 各学校でのリサイクル資源となる雑がみ等の取り扱い。

A 学校教育課長 学校では、紙のリユース、リサイクルを推進しています。全ての学校ではありませんが、子供たち自身が雑がみの回収に直接関わっている取り組みとして、教室に袋などを置いて回収しています。

Q 新ごみ処理施設スタートまで小川地区衛生組合焼却場の長寿命化を図りながらの運営となるが、当町の年間経費は。

A 環境農林課長 埼玉中部資源循環組合は、解散の方向で協議することになりましたが、小川地区衛生組合として、予定していた新施設開設の令和5年度末までは、焼却場延命のための修繕計画を立てていました。基金からの対応で、2億6000万円程度と想定していました。

持続可能な下水道運営を

Q 下水道整備計画区域見直しの住民説明会で出された意見や要望等は。

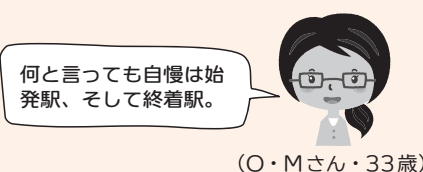
A 上下水道課長 「下水道が整備されないのに都市計画税を払い続けるのか。下水道を整備してほしい」等の声がありました。一方、今後進めていく浄化槽整備の前向きな意見もあり、おおむね理解を得られました。



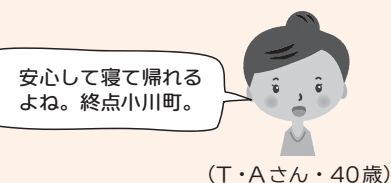
雑がみ資源化への取り組みについて出前講座が実施されています。



(H・Hさん・42歳)



(O・Mさん・33歳)



(T・Aさん・40歳)

Mini Column
オガワマチのこと
ギカイのこと
一緒に見よう、考えよう
「あなたが考える町の
キャッチコピーは」